



講演会

「赤松小三郎と幕末上田藩」

幕末に誰よりも早く
日本近代化のグランドデザインを描いた男

幕末、信州上田藩士の赤松小三郎は、京都で開いた洋学塾などで多くの英才を育てるとともに、わが国の近代化に向けてのグランドデザインを描き、その実現に力を尽くしました。残念ながら、1867年(慶応3年)9月、37歳で志半ばにして暗殺されましたが、赤松小三郎の先進的な政治思想と優れた洋学の教えは、日本の近代化に大きく貢献しました。

今年の講演会には、歴史研究家で、上田藩の歴史に造詣が深く、また、赤松小三郎についての研究に定評のある尾崎行也氏をお迎えし、幕末上田藩と赤松小三郎との関わりについてのお話をお伺いします。

明治150年を迎え、赤松小三郎がわが国の近代化に果たした役割についての再評価が求められております。

幕末史にご興味をお持ちの多くの皆様のご参加を心からお待ちしております。



上田市立博物館蔵

日時
会場
参加費

平成30年8月5日(日) 講演 14:00~16:00(受付開始 13:30)
日本教育会館 9階 喜山倶楽部 (裏面案内図ご参照)
1,500円 (当日会場受付にて申し受けます)

講師

尾崎 行也(おざき ゆきや)氏



地域史研究家、
元長野県立歴史館専門員、生涯学習団体上田社会教育大学講師
主な著書 『復刻 諸国道中商人鑑』(郷土出版社)、シリーズ・江戸庶民の生活史『江戸を生きる』(八十二文化財団)、共著『北国街道』(吉川弘文館)、
『上田古地図帖』(しなの書房)など

演題

「赤松小三郎と幕末上田藩」
～信濃国上田藩(藤井松平氏忠晴系5万3千石、宝永3年～明治4年)の幕末期における藩政動向と、藩士赤松小三郎の句「家柄は言ふな雪解の黒濁り」をめぐって～

お申込み

赤松小三郎研究会事務局 電話:070-2685-2384(事務局 小山)
Eメール:kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp
事前のお申込みをお願い致します(定員100名様です。先着順に承ります)
幕末の歴史にご興味ある方大歓迎です

主催

上田高等学校関東同窓会赤松小三郎研究会

赤松小三郎【天保2年(1831年)～慶応3年(1867年)】



赤松家家紋 竜胆車

幕末の信州上田藩士。江戸に出て内田弥太郎、下曾根金三郎に師事し、数学、天文、測量、暦学、蘭学、砲術を学ぶ。その後、勝海舟の従者として長崎海軍伝習所で、航海術などを学ぶ。さらに横浜で英国士官アプリンから英語、英国兵法などを習う。

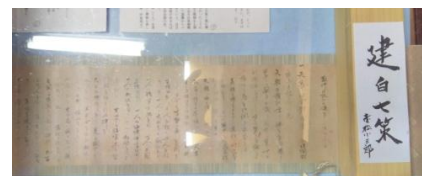
幕末の京都で開いた私塾や薩摩藩邸、会津藩邸で洋式兵学を教えた。諸藩より学ぶ門下生の数、800余名。その中には東郷平八郎元帥、上村彦之丞大将など日清、日露戦争で活躍した諸将が含まれる。薩摩藩島津久光侯の委嘱により、「重訂 英国歩兵練法」を翻訳した。

慶応3年5月、前政事総裁職(前福井藩主)松平春嶽侯、島津久光侯、幕府に建言した「建白七策」は、わが国の近代化に向けての国家のグランドデザインを描いたもので、政治史のなかで燦然と輝いている。天幕一和、諸藩一和のもと上下二局の議政局により内憂外患のこの時期を平和的に乗り切る方策を模索し、西郷隆盛や徳川慶喜への働きかけなど、最後まで東奔西走したが、明治維新直前の慶応3年9月、京都において桐野利秋などの薩摩藩士により暗殺された。享年37。

上田市(上田城跡公園内)に赤松小三郎記念館がある。



重訂 英国歩兵練法
(出典:上田市立博物館)



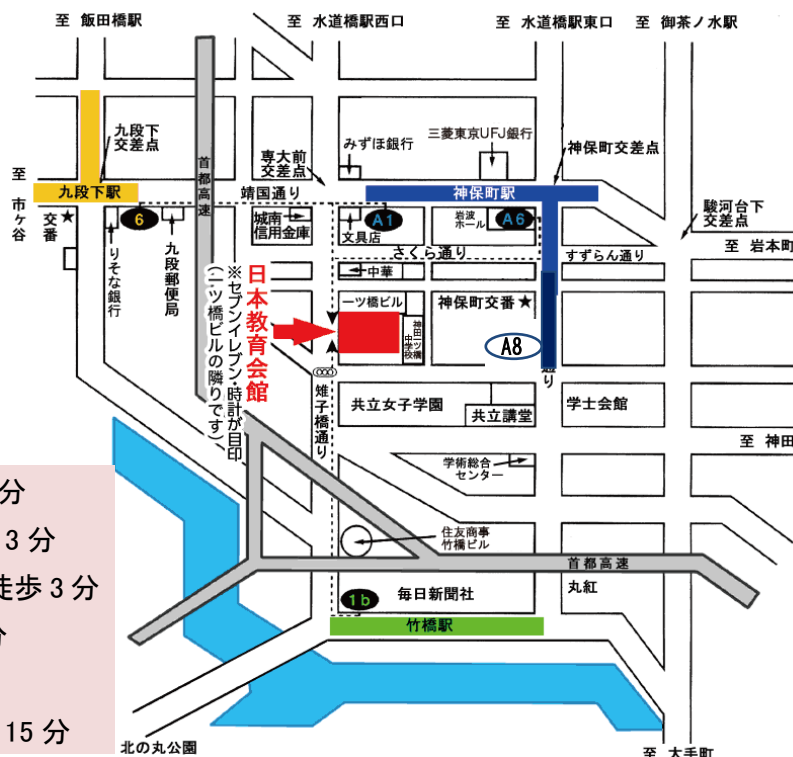
建白書複製(赤松小三郎記念館)
原資料は鹿児島県歴史史料センター黎明館蔵

■会場のご案内 日本教育会館 9階 喜山倶楽部



日本教育会館

- 半蔵門線神保町駅(A1出口)下車徒歩3分
- 都営新宿線神保町駅(A1出口)下車徒歩3分
- 都営三田線神保町駅(A1/A8出口)下車徒歩3分
- 東西線九段下駅(6番出口)下車徒歩7分
- 東西線竹橋駅(1b出口)下車徒歩5分
- JR 総武線水道橋駅(西口出口)下車徒歩15分



会場の住所 千代田区一ツ橋2-6-2 喜山倶楽部 電話03-3262-7661